

第 25 分科会

登校拒否・不登校

小規模校での不登校

～ 弘樹の居場所をつくるには ～

組織名 : 岐阜教組

報告者 : 佐藤 真

職場等 : 岐阜県 小学校

小規模校での不登校 ～弘樹の居場所をつくるには～

2020年 教育研究全国集会レポート

岐阜県 小学校 佐藤真

1. 学校に来られなくなった弘樹

2016年度、転勤した学校で、3・4年生複式担任になった。弘樹は3年生で、1年生の途中から不登校気味になり、2年生の1月7日に登校して以降は来ていない。3学期は郡の適応教室に行っていたが、4月になってからN小の仲の良い子が学校に戻ってしまい、行けなくなった。M市の適応教室とも連絡を取ったが、そこにも同学年程度の男子はいなくて、あまり行けなかった。

弘樹の家族は、父・祖母・伯母・祖父。家は、車の通りが多い国道と、鉄道に挟まれた場所にある。父親は、M市の忙しい肉屋に勤めていて、帰りは遅い。その年は火曜だけが休みで土日は子どもと触れ合うことができない。得意なことや好きなことは、物を作ること、運動すること。

3年生は弘樹と留美、優美の3人で、家でならその女子2人とも遊べる。学校や適応教室などに行けるかどうかは、当日の朝にならないと分からない。よく言う台詞が、「僕は、その日の朝になってみないとわからないから」。

2年生の時、カウンセラーから「発達障害ではないか」と言われて医者に行くが「何もない」と言われた。保育園の引継ぎには「これからの行動の見通しが持てないと不安」「予定の変更に敏感」のようなことが書いてあった。3年生の12月に検査に行ったところ、医者が本人を見て、検査もせずに「発達障害だ」と言われた。

2年生までのK小学校は、かなり窮屈な学校だったようだ。弘樹は、期待されていることに応えようとする気持ちは人一倍強いのに、それにちゃんと応えられる力を持っていないのではないかと、というのが、私と話していく中で祖母が考えたこと。そして、弘樹にとって最も苦痛だったことが「歯磨き」だったのではないかと2人で考えた。K小は、歯の教育に力を入れていて、文部科学大臣賞も取った。彼は学年で唯一の男子。保育園のころから「君は、6年生になったときに唯一の男子だから」と特別に力を入れて育てられたようだ。3年生時、なかなか歯医者に行き足が向かなかった。

2. きら星3組へ

伸一は、4年生。ネフローゼのために学習が遅れ、特別支援学級（きら星3）に在籍。弘樹と伸一は仲が良いらしく、4月末の休日、伸一と弘樹と私の3人でドライブに行くことにした。4年生は8名だが、3人の男子はみんな「きら星3」在籍。私のクラスは5名の女子、3年生も、弘樹以外の2名は女子。女子しかいないクラスに戻ることは無理と考え、「きら星3」に来られるよう誘う。

当日は楽しく過ごし、弘樹は、「今まで生きてきた中で今日が一番楽しいかもしれない」と口走った。帰りの車の中で、「伸一さんたちのクラスに来られないか」と誘うと、伸一も一生懸命に誘っていた。

ただ、肝心の伸一が連休後に入院してしまい、1学期はほとんど学校には足が向かなかった。

次に計画していたのが、隣の校区で8月14日にある花火。きら星3のH先生も一緒。今回のねらいは「H先生と弘樹が仲良くなること」。雷が鳴っていたので、伸一は気分が悪くなり帰ることに。私の車で伸一を家まで送る間、H先生と弘樹が2人で花火の会場で過ごした。その結果、H先生と弘樹はかなり親密になった。帰りに弘樹宅まで行く間、2人で少し話をした。「H先生って楽しくて面白い先生でしょ」「うん」「どう、2学期から、H先生のクラスに行く気にならない?」「でも、ぼくは、その日になってみないと分からないから」

3. 来たい気持ちもあるようだが・・・

9月末、町内の特別支援学級合同の行事があり、弘樹はその行事に参加したい。しかし、特支学級の籍がないと参加できないので、もともと弘樹の発達障害を疑っていた祖母が「特別支援学級に入級したい」と言い始めた。

10月6日、私の空き時間を利用して、弘樹を連れ出すことにした。不登校気味になっていた伸一と3人で。しばらく過ごしてから、私「さて、これからどうする？ 家に帰るか、それとも武さんや正志さんのところ（きら星3）に行くか。2択です」伸一「え、3択じゃないの」私「もう選択肢はありません」みたいな会話をしていると、弘樹が行ってもよさそうなつぶやき。ただ、伸一「ぼくは、行ってもいいけど、弘樹さんにまかせる」と言うといひるんだのか、弘樹「家に帰る」。

次の日、近くのN城址に行った。きれいな眺めを見た後、帰るときになって、伸一が「こっちからも帰れるよ」というので、そちらに行くと、車を停めた所とは反対方向。Nのまちなかに出てしまい、製材や畑で働いている人にあいさつをしながら車まで歩いた。2人も元気にあいさつ。学校に着いてから、「きら星3」の教室へ。4時間目、「きら星3」の子と弘樹は運動場で野球。しばらくして3年生と3年生の算数の先生、そして養教も野球に加わる。4年生も行きたがったが、やめた。お姉様方が行って、弘樹が萎縮する可能性もあった。

11日の朝、祖母から電話で「社会見学に行きたいと言っている」。しかし13日、結局来られなかった。前の晩はりきっていて、岡山で買って来たおみやげもみんな食べて、一人分は0個になるなどと計算をしていたのだが、朝になってみると起きられなかった。次の日、祖母に「昨日は残念でした」と言うと、「昨日、あれから本人が『間違えた』と言った」とのこと。「行く」というのを間違えて「行かない」と言ったというのだ。そんなことを間違えるはずないが・・・揺れているか？

その後もたまに学校に来ていたが、11月7日（月）、特支学級（知的のきら2+情緒のきら3）で1時間目にポップコーンの試作を行ったので、朝から来た。2時間目はパソコン。3時間目は自分から「算数をやる」と言ったそうで、H先生とやった。4時間目の理科は、なんと3・4年の教室で一緒に受けた。給食も「きら星3」で食べた。昼休みは野球、掃除の時間はH先生と一緒にきら星3の掃除、5時間目は体育（ラインサッカー）をした。「1日中、学校にいた」ということで、職員室は大さわぎ。祖母も舞い上がっていたが、私と養教は「そんなに簡単なものじゃないよね」と顔を見合わせていた。

やはり、その後はしばらく来なかった。1日中いて、エネルギーを使いすぎたのかも知れない。11月30日には社会科で浄水場見学をした。これまでの社会科の学習には参加していないのに、係の人にたくさん質問をしていた。12月3日参観日、特支学級のポップコーンづくり本番があった。弘樹は前から楽しみにしていたが、結局来られなかった。3学期に、ポップコーンでもうかったお金を使って、遊園地に行くという企画があり、それは行けた。

4. 適応教室・読書・お別れ

郡の適応教室には順調に通えているようだった。しかし、12月末に、あるゲームソフトをもらってから、それにのめりこんでしまった。適応教室に行ける回数もめっきり減り、月火（女の先生）は行けるが、木金（男の先生）は行けない、そして火曜日は父親との触れ合いが優先になってしまい、結局1週間に1日しか通えない日々が続いた。

弘樹は読書が極度に苦手。11月中旬ぐらいに、司書の先生に頼んで弘樹が興味を示しそうな本を紹介してもらった。担任が本を借りて家庭訪問の時に持って行った。「とても喜んで読み聞かせを聞いて

いた」と祖母も喜んでくれた。その後「かいけつゾロリ」シリーズを月曜夜に家のポストに入れ、金曜の家庭訪問時に返してもらうという日々が3月まで続いた。毎週楽しみにしてくれていたようだ。

春休み、道の駅のレストランで2人で食事をした。その中で聞いてみたいことがあった。来年度担任は男のM先生に決まっている。弘樹は適応教室で男の先生に拒否反応を示していたようなので、「来年の先生は、男がいいか女がいいか」と聞くと「男がいい」と答えた。「適応教室は女の先生がいいけど、学校は男の先生がいい」。

5. 4年生・5年生で

4年生時は、M先生の3・4年生のクラス。新しい校長が弘樹の父親を中学校の時に担任したということもあり、火曜日に父親が弘樹を学校に連れてくるようになった。ただ「過呼吸」という症状が表れてきた。どうも、2年生まででもあったらしく、再発したらしい。養教に「どうしてまた、出たのかな」と尋ねると、「さあ、登校刺激を与えたからかな」という返事。本当のところは分からない。

5年生時は、きら星3への入級となり、M先生がきら星3の担任となった。火曜の父親との来校も続いた。調子のよい時は、午前中に来て給食を保健室で食べ、5時間目の体育を一緒に行うこともあった。

6. 今年度になって

弘樹を、今年度6年生で担任することになった。今年度の自分自身の立場は、「教務主任」「生徒指導主事」「きら星3組担任（伸一たちが卒業し、在籍は弘樹のみ）」「5・6年生社会科」「3年生社会科」。

交流学級の状況は、5年生7人（内蔵助、良助と、あと5名の女子）と6年生女子3人（1名増）。

4月2日（火）、父親と話す。父親は「何とか学校に来ることに慣れてほしい」。3年生の時に祖母から「息子がもうちょっと孫のことを考えてほしい」と言われていたことからすると、焦っていると感じた。こちらが、いろいろな事例を挙げて「大丈夫ですよ」というようなことを言うと涙ぐまれた。

8日 始業式の夜、訪問。祖母が呼ぶと奥の部屋からニコニコして出てきた。調子の良いスタート。

9日 10時に来るはずが11時過ぎに父親と来た。なかなか起きなかったそうだ。本人に尋ねると2時に寝たらしい。父親は弘樹が寝た時刻を把握できていない。3人で桜並木の道などを散歩しながら、話をした。腹筋は毎日100回しているそうだ。「負けた。先生は70回。もっとがんばろう」など。軽い気持ちで「ずっと家にいると体がなまっちゃうでしょ。せっかく体育が得意なんだからもったいないよ。みんなが帰ってから学校に来て体を動かしてみない？」と聞いてみたところ、「うん」と答えた。次の日、祖母から電話。「弘樹が放課後に学校に行きたいと言った」。こんなことは初めてだと言われる。

次の日、児童が帰宅した後、祖母と一緒にグローブを持って来た。父親と火曜日の夜などに、野球の個人レッスンを受けたりバッティングセンターに行ったりしていたので、野球ができる。

登校すると、まず私と一緒に軽くジョギングをしてから、キャッチボール。その後Tバッティングやノックなど。幸い、5・6年交流学級のK先生が中学校の時にソフトボール部、第2教頭（小さな学校なのに、来年から合併するのでその担当）が野球やソフトボールが好き、初任者（4年生担任）も野球が好きということで、助けてもらえた。弘樹は4時30分頃～5時30分頃といるので勤務時間を過ぎてしまうのだが、時間が許す人は気持ちよく協力してもらえた。

ただし、父親が休みの火曜日は、だんだん父親と触れ合う日となっていき、学校に来なくなった。

もう一つ、考えていたことがあった。内蔵助の家はすし屋をやっている。内蔵助、良助、弘樹が土曜

日の昼ご飯をすし屋で一緒に食べ、そのまま午後から内蔵助の家で遊ぶということ。

4月20日（土）参観日、2人に昼食会について話すと乗り気。良助の父（町教委主幹）は「放課後の野球も誘ってください」と言われた。弘樹も祖母も父も乗り気だった。昼食会は、6月の海での研修のことを見こしての事という話もした。昨年は修学旅行に父親が車でついて行っているが、今年はどうするのかを話題にした。本人は「ついてきてもついてこなくてもいい」と言った。（5・6年複式なので、現6年は昨年が修学旅行、今年が海の研修）

5月7日 「ともの会」職員2名・町教委1さん・弘樹の祖母・父・佐藤・第一教頭 で「弘樹さんの応援会議」。この会議は一昨年か昨年ぐらいから行っている。

その夜、良助の母と電話。「いきなりすし屋」ではなく、一度、弘樹が放課後に来た時に、良助も内蔵助も残して一緒に遊び、そこですし屋のことを約束した方がよい、ということになった。

その後、「弘樹、良助、内蔵助の3人と先生が少しで放課後に遊ぶ（2人は、用事がある日は帰る）」ということがスタートして続いていった。すし屋での昼食会は、結局やっていない。

15日 会議があったので、子ども3人で遊んでいてもらった。教師が合流してから遊んでいる途中、「海の研修行くか？」と聞くと、「もちろん」という感じで「行く」と答えた。その後、子ども3人で遊ぶ時間がちょくちょくあった。

20日 5年生2人は用事があったので教師で対応。はじめにトラック3周を2人で走ったが、その間、先日父親とナゴヤドームの試合を見に行ったことを話してくれた。野球の後、パソコン室に行って、56年の子たちが書いた日間賀島（海研修）の資料を見た。かなり行く気になっている。

23日 放課後、野球をやる。内蔵助はそのうちいやになった。実は運動（特に野球）が得意ではない。内蔵助のところには、ゆるめのゴロを打った。

24日 内蔵助は野球をいやがった。鬼ごっこをやりたがったが、暑いので弘樹が「死んでもいいなら鬼ごっこやろうか」と言って牽制。結局、サッカーをやることになった。その後も、サッカーをやることが多くなった。

6月6～7日 海の研修。弘樹は朝、時間通りに学校に来てみんなと一緒に日間賀島に行った。活動もみんなと一緒にやった。ただ、6日の晩に「今日の研修の感想」みたいなことを言う会があったのだが、そこでは自分の番が近づくとつれて顔色が悪くなり、養教が部屋に連れて行った。漁師さんへの質問もなかった。3年生の時の浄水場見学とは違った。

25日 ともの会との応援会議で記憶に残ったこと。――父「良助や内蔵助と関わるようになったことで、会話の内容が変わってきた。良助や内蔵助の話が多い。内蔵助との会話を楽しんでいる」

27日 6年生3人に「弘樹さんと遊びたい？」と尋ねてみると、3人とも即座に「遊びたい」。5年女子も遊びたがったが、急に進めると心の負担になってしまうので、遠慮してもらおう。放課後、弘樹にも「留美さんや久美さんや優美さんとも一緒に遊ぶのはどう？」と尋ねると「いいよ」と言った。

放課後、雨なので体育館で遊んだが、フラフープを使っていた。弘樹も含めて、3人でまた新しい遊びを考えた。野球、サッカー、バドミントンといった既成の遊びではなく、子ども同士の世界でどんどん遊びが広がっていくのがうれしい。

7月1日 町内の特支学級で行う「にこにこ交流会」だが、弘樹はこない。放課後には来た。

3日 6年3人が「弘樹と遊ぶために残りたい。家の人にはいいと言われた」と言う。家に確認をし、

雨なので体育館でボール遊びやバドミントン。「ダブルスをやろう」ということになり、優美が一人でコンビを決めた。優美は弘樹と組んだ。留美と私、久美と内蔵助。留美は、優美が決めたことに不満を持っていたようで、自分が弘樹と組みたかったようだった。かなり女子のパワーがすごくて、弘樹は圧倒されたかも。次の日に来るのか心配だったが、来た。

5日 参観日。学級懇談会中に弘樹が来て、子どもだけ6人で体育館で遊んだ。帰るとき、留美の母が弘樹に「遊んでくれてありがとうね」と言うので、「こっちが遊んでもらってるんだよな」と私が言うと、「本当に留美が喜んでいて、弘樹さんと遊んだことをいっぱい話してくれる」と言われた。

11日 プールカードを渡しながら、「夏休みのプール、どうする?」「来る」「じゃあ、目標を書こうか。〇m泳げるようにするとか、何日来るとか、いろんな目標があるけど」「回数にする」「何回?」「6回(10回中)」というやりとりをする。

次の日、女子2人が用事で残れないが、久美は進んで残った。久美が「(ピオトープで)弘樹君を見つけ方を教えてもらったら、私は5つも四つ葉を見つけたよ」と言ってきた。「このような世界もいいね」とK先生と話した。

18日 祖母と弘樹と私の会話。プールについて「6回を目標にしています」と言うと祖母は驚いていたが、さらに祖母「私が送るの?」弘樹「スクールバスで通う」という会話でさらに驚いた。9時前にはバスに乗らなければならない。祖母が「大丈夫か」と尋ねると、「無理やり起こして」と頼んでいた。

8月2日 プールの最終日、でも結局、ずっとプールには来られなかったのだが、弘樹は初めて来た。31日の保護者がプール当番をしたときにも来られなかったのに。「最後にせめて1回は」という気持ちがあったのか。プールでは、5年男子や6年女子と楽しそうに過ごしていた。

7. 運動会に参加を

8月29日から2学期。30日の放課後6人で遊ぶ。はじめのうち30分ぐらい様子を見ていた。男女別々に遊んだり、部分的に混ざったりして遊んでいた。弘樹は良助とバスケットをしていることが多かった。4時になったらみんなで遊べるように呼びかけようと思って時計を見ていたが、良助がもうすぐ4時というところに「みんなで遊ぼ」と呼びかけた。バドミントンをすることになった。子ども6人、大人2人いたので、2人ずつのチームで対戦した。弘樹は留美とペアになり、1位になった。

夏休みの間に、校長の意見で「運動会の徒競走に参加するという目標を立てる。参加できたら、ご褒美として、きら2組の聡志さんと一緒にレゴランドに行く。総合の時間を使って計画を立て、当日は聡志さんを案内できるようにする」という校内方針を立てていた。

9月2日 まず50メートルを競走。かなり体がなまっているかと思ったが、スポーツ万能の良助とほぼ互角。その後、ドッジボールをやった。帰りに、祖母と本人に10月2日のアクアトト見学(町内の特支学級の行事)について聞いてみると、乗り気だった。

3日 ともの会応援会議——気にとまったこと。夏休みにはKM市のプールに2~3回行った。31日、1日と息苦しかった(夜11時ごろ——クーラー病? パニック? できれば心療内科に行く)。不安の例——買い物に行って、弘樹がトイレに行くとき、「ここにいてね」と言う。父親と銭湯などに行くときも同じ。こちらからは、「居場所をはっきりさせて、だんだん離して行ったらどうか」アドバイスした。空想で不安を大きくしてしまうところもある。 Deng熱が流行った時から、夏でも短パンをはかなくなった。中1の伸一に対しては、以前よりははっきりと言いたいことを言えるようになってきている感じ。9

月6日に WISC の予定。

K先生から聞いた話。10月3日の中学校交流会のグループで、優美が「弘樹さんと同じグループになりたい。弘樹さんが休んだ場合に一人になってもいい」と言ってくれたそうだ。

4日 「昼はいくらゲームをしても良いので、夜10時ぐらいに寝られないか」というと、「お父さんが11時に帰り、それから話したいので遅くなる」という。昨日、心療内科で睡眠薬をもらったらしいので、それを11時ぐらいに飲んで、父親と30分話したらふとん入るということができないか話した。小中交流会は、野球部の見学もできるということで、少し乗り気。来年度のクラスについては、特支ではなく通常が良いという返事だった。「もし通常級に入るのなら、勉強を頑張っておかないと、キツイ」という話をし、登校の仕方についても話した。「運動会までは、今のまま過ごす。運動会後は、5・6年と一緒に6時間目を過ごす、その後は、残って勉強をする、その中に、漢字も入るし、もし徒競走に出られたら、レゴランドに行くための調べ学習も入る」というような話をした。

その後も、弘樹は順調に学校に来て、遊んだり、徒競走の練習をしたりした。6年生女子よりはずっと速い。良助とは互角ぐらい。「5年生男子と走りたいか、6年生で走りたいか」と尋ねたところ、「男子3人で」と答えた。

ある時、以前から何回かやっている「ボールを投げて、水道場にある穴に入れる遊び」をしていたが、ワクチン接種をしたところがまだ痛むらしく、遠くに投げるのは抵抗がある。男子は弘樹と内蔵助と私の3人で順番を決めて投げたが、あるとき内蔵助が入れた。普通ならそこで同じチームなので喜ぶところだが弘樹は少し怒った感じでボールを内蔵助にぶつけた。次が自分の番なので、内蔵助が入れると次は自分が第1投になる。第1投は距離が長い。ワクチンで腕が痛いのでその気持ちは分かるが、「それはいけない」とたしなめた。その後少しして見たら、少し目が赤かった。その後も少し機嫌が悪かった。ただ、それはしょうが無いと考えた。次の日から立ち直っていた。

ずっと調子よく進んでいたが、25日に風邪をひいて休んだ。そのまま、結局、運動会当日も来られなかった。運動会に来られなかったことが響いたのかどうか分からないが、その後、立て続けにあった10月2日のアクアト見学、3日の小中交流会に参加できなかった。最近、運動会など「行く」という機会が多いせいか、呼吸が苦しくなることが増えているとも言われた。

8. 学校に来られないなら・・・

K小は、ほとんどがスクールバスでの通学。5・6年生を学校に残すということは、保護者に負担をかけることを意味する。一部の保護者から、「いつまで続くのか」声も聞こえ始めていた。そこで、前述のように、運動会後は、放課後ではなく、週に2～3回、5・6時間目を体育にしてそこに来てもらい、その後、残って勉強する、という方針を立てていたわけだ。

10月4日の放課後、トラックを3周しながら少し話す。火曜日以外は運動する機会がないと言うので、走るというよと言っておいた。その後、校舎内に入って今後のことを話す。5・6年の通信を見ながら、来週の予定や今後の行事について話した。行事については、首をかしげるものと、行くというものと、行かないというものがあつた。

7日 1:50に学校に来る予定だったが、午前中、祖母から「伸一さんから電話があつて、弘樹が1時30分から遊ぶ約束をしてしまったがどうしよう」という電話があつた。訪問して「今日は4時30分からにする。5・6年の子たちはいないので、先生がノックする。そのあと勉強しよう」と言う。「うん」と言った。初任の先生も手伝ってくれて、キャッチボールとノック(守備の練習) → 九九を思い出す → 2年生の漢字総復習を一度全部読んでみる というメニューをやつた。

9日・10日と、なかなか起きられずに来られない。7日のノックがちょっときびしくて足が向かないのかとも思ったが、どうも、8日（火）に相当疲れたらしい。

11日がパジェロ見学だったので、K先生と5年生国算の非常勤の先生に頼んで、5時間目の自習の一部の時間で手紙を書いてもらえないかと頼んだ。昼休みの図書館に良助・留美・久美がいたので、手紙の話をする、良助が「お母さんもそう言ってた」と言った。手紙を届けに行ったとき、少し話した。今週、行く気にならないのは、火曜日に疲れたというよりは、何となく行く気にならないという理由のようだ。「友達がいないからなのか」「ノックがきつかったのか」「勉強が嫌だったのか」など尋ねるがはっきりしない。多分、友だちと遊べないからだろう。こちらからは「このまま学校に来ないことになったとして、野球の守備の練習ができないことは、先生としてはどうでもよい。心配なのは、勉強の遅れを取り返せないこと」と話した。ほかにもいろいろ話し、最後にみんなの手紙を見せながら、「パジェロに来てもらいたいという強い思いだよ」ということを言った。

次の日、結局、朝おきることができず、パジェロ見学はできなかった。

なかなか体育の授業の時間に来られないのは、体育は遊びではなくメニューが決まっているからではないか、その中には苦手なものもある、そんなことを考え、「昼休みに来て遊ぶ」ことを思いついて他の先生にも了解を取った。弘樹にも「友だちと遊びたいんだったら、1時に来て昼休みに体育館で遊び、みんなが掃除や授業に行ったらきら星3の部屋で勉強する」ということも提案しておいた。

10月16日 1時の昼休みには来られなかったが、4時30分に来て、「トラック2周・キャッチボール・ノック」のメニューをこなした。しきりに「眠い」を連発していた。昨晚（火曜）は12時に帰ってきたと言う。その後、九九。前回と比べてかなりスムーズに書けた。次に漢字をやった。

17日 3日に参加できなかった小中交流会の代わりに、中学校に行った。「中学校の生活」についての話を聞き、その後、野球部の練習をみた。祖母もずっと一緒に説明を受けたり部活を見たりしていた。

18日 5時間目に来た。雨だったので、K先生はハードルの予定を保健に代えようと思っていたが、体育館でのバドミントンとドッジボールにしてくださった。5年生女子も含め、楽しく過ごした。

21日は学校に来た。23日 昼過ぎに「来られない」と連絡があった。「起きたんだけど、眠くてしょうがない」とのこと。最近、「眠い！」と言うことが多い。「火曜日を起点に生活が崩れてきているような気がする」という話をした。11月5日（ともの会応援会議）に、父親にその話をしよう。

24日（木） 父親から、今日は自分が臨時で休みになったので、学校を休むという電話があった。それは了承し、「遅くならないよう」「遅くとも、12時には寝られるように」ということを言った。

25日 3:00に来て、体育（バレー導入）を一緒にやった。その後、漢字・九九をやった。漢字は3回目なので今までよりスラスラと書けた。「スムーズに書ける（写せる）ようになったということは、結構おぼえたということ」という話をした。

28日は来られなかった。「気分が乗らない。気分が乗らないのに行ってもしょうがない」ということらしい。体育（バレー）の内容に問題があるのか、たまたま今日が乗らなかったのか。しかし、5時間目のバレーがダメでも、放課後に来れば良い。「夕べは何時に寝ましたか」と尋ねるが分からない。本人も何時に寝たかはいつも分からないので、本当は、まわりの大人が見届けられる時間にねることが必要。何とか12時までには寝るようにしないと、これから学年が上がるほどどんどん生活が夜型になってしまふ。眠くても、昼間は寝させないようにして、夜になったら眠くなるようにしないと・・・そんな話をした。

11月5日 とも会の 応援会議 こちらからは、「生活リズム」について話した。「昼の12時には気持ちよく起床できて、昼食後には中学校に行けて、勉強後に部活をやって帰宅できる生活」

7日 その日も「気分が乗らない」ということで来ないとの連絡が10時半ぐらいにあった。午後から「卒業アルバムで撮りたい写真があるから、そのためだけでも来て」と電話すると来た。事務的なことを少しだけ話す。現在、何時に寝ているか分からない状態なので、「ふとんに入った時間を毎日記録しておくこと」を課した。また、応援会議で「夜中に教科書を広げているようだ」という話があったので、「家にプリントを持ち帰ったらできるか？」と聞いて、「できると思う」とのことだったので、プリントを渡しておいた。

10月に入ってからの方針は、軌道修正したことも含めてうまくいっていない。弘樹は、毎年この時期になってくると調子が悪くなる。方針がいけないのか、季節の問題か……。試してみることにした。

11月11日からの2週間、9月までのやり方に戻してみる。5年男子の保護者は気持ちよく協力してくださるので、今回は5年男子のみ。しかし、結局、2週間待っても弘樹は来られなかった。14日には、朝まで起きていて朝食を家族と食べてから寝たとのこと。起きられるわけがない。15日も来られなかったので、夕方に訪問。「とにかく眠れない。眠れないから起きられない」と言われる。来週もダメだったら、「こちらから訪問して勉強する」という提案をした。心療内科（N病院）は、予約がいっぱいで、どうにか12月17日にとれたらしい。

11月19日（火）の昼過ぎに電話してみた。午前中に父親と出かけたとのこと。父親と出かけるためなら、午前中に起きることができる。どれぐらい睡眠時間がとれているかも気になるので、寝た時刻を聞いてみたところ、昨晚（今朝？）は分からない。昨日は朝の4時と本人が言ったとのこと。今朝もそれぐらいだったのか？ 睡眠時間が少なくても火曜日はいいのか、月曜夜は早く寝られるのか。明日は社会見学なので、できれば朝来られると良いことを伝えた。父親の携帯にも初めて電話してお願いした。しかし、社会見学は来られなかった。

22日（金） 訪問し「2週間、結局来られなかったので、月曜日から訪問して勉強をする」ことを宣言。本人にも玄関まで出てきてもらって話した。基本的には、5時間授業のときは2時から、6時間授業の時は3時から訪問して勉強することにした。

23日（土） とある学習会で、日体大の野井真吾先生の話聞いた。その話の中で、昼にしっかりと太陽レベルの光に当たらなかつたり、夜に明るすぎたりすると、眠るための物質が出ないそうで、その場合、眠くなるのが朝になるという内容があった。この時期に体調が悪くなるのは、寒くなるからなのではないかと思っていたが、日が短くなるからなのかも知れない。（H宅は日照時間が短い）

25日 訪問スタート日。漢字、九九プリント、家の裏の道を15分ぐらい散歩。今まで家庭で、九九はやっていなかったが、漢字は毎日ぐらいうちでやっていたらしく、学校でやったプリントも家でその後に行ったプリントもファイルに挟んであった。その後、文章題のプリント（3年生、足し算かな引き算かな）、音読（「へんな怪獣」（星新一）の1つ目の話）。

27日 訪問2日目、漢字、九九プリント、散歩。その後、5・6年学級通信を見せながら、今までの行事について話した。文章題のプリントの後、木曾三川公園への社会見学についてもさっき話したので、「あほろくの川だいこ」の半分ぐらいまで音読した。

29日 いつものメニュー。音読は、あほろくの川だいこの続き。散歩をしながら、昨日の父親とのお出かけについて聞いた。10時頃、起きたらすぐに連れて行かれた。鈴鹿まで行ったらしい、熱田神宮、

なばなの里も。帰りに、行ったことのない銭湯を探したが、なかつたり休みだつたりして、結局、よく行くKM市の銭湯になった。昨日寝たのは、1時30分ぐらい。

12月4日 いつものメニュー。「かけ算かなわり算かな」をやったが、ちゃんと立式できる。かけ算の筆算の仕方は、少し教えたらできた。「起きてから3時間以内は、いつも頭が働かない」と言っていた。散歩のときには、車のスピードの話など、他愛もない話。

5日 6日 通常通り。ただ、6日の散歩に行くとき、ちょうど列車が近づいて来るのが見えた。弘樹は「あれが来ると大変だ」と言って立ち止まる。そのまま進んで左折すると、真上を列車が通る所になる。私なんかよりよほど慣れていると思っていたが、かなり恐怖を感じているようだ。

9日 通常通り。算数は四則計算が混じった文章題。式は2つ以上必要だが、ちゃんと立式できる。散歩のとき地域の集会所の上に小さな社があったが、その傍らにある石に「慶長元年」と書いてあった。「今から400年以上前のもの」とか「江戸時代より前のもの」という話をした。今朝は、7時30分に起きたそうだ。大いに褒めた。

11日 散歩の時、ペットボトルが落ちていたので飲料の話になり、こちらが「微炭酸」という言葉を出すと、弘樹が「反対語は強炭酸」と言った。そんな言葉を知っていてそこで使えるんだと思った。

12日 今日起きたのは遅くて1時ぐらいだったらしい。昨日とほとんど同じ。布団に入ったのは午前1時過ぎだったそうだがなかなか眠れなかったらしい。

13日 散歩は「慶長の石碑」に興味を示し、そちらのコースへ行った。

16日 7:40頃起きたそうだ。「月曜日は早いのか？」と尋ねると、「そうでもない」。いつものようにこなすが、文章題に初めて3桁×2桁が出てきた。やり方と理由を教えると、すんなりとできた。散歩の途中で「ローマ字はどうだろう」と思いつき、音読の後にそばにあったパソコンを出させて、AからPOまでやってみると、できる。きゃきゅきょのようなものは分からなかった。

18日 昨日、のぞみの丘に行ってきたことを祖母から聞いた。「どんなことをしたの？」と散歩の時に尋ねたが、「ふつうにただしゃべっただけ」。散歩の途中、「地元の中学校ではなくS学館（不登校の子が寮に入って生活しているS市S中の分校——ともの会も、その関係）に行くという選択肢もある。その場合、土日にしかに家に帰れないが、どうか」ということ、「卒業式に出られそうか、出たいと思うか」ということ、「23日の5時間目に学級レクを入れたら、参加したいか」という3つのことを尋ねた。「1つ目と2つ目は返事を急がなくていい」「3つ目はできれば明日返事が欲しい」と言った。算数は、「足し算かな引き算かな」で小数をやった。暗算でやってしまった。例えば「 $24 - 22.5$ 」も。

19日 ともの会の先生と入れ違い。これから産休に入るとのこと。弘樹に対して手紙を書いておられたようだった。弘樹は「ちょっとだけ話した」と言っていた。散歩は山を歩いたが、やはり、結構ビビリ。高所恐怖症だったり、くつが少し滑ったりするのが怖い。

20日 散歩の時、23日（月）のレクは大丈夫かと尋ねると、「父親の休みがいろいろ変則的になる。火曜日はイブなので店を開く。その代わり水曜日が休み。あと、土曜日（月2回）の代わりに月曜日を休みになるかも」。勤務がどうなるのか、父親とLINEで連絡を取ることにした。

23日（月） 昨日のうちに父親と連絡を取り、「土曜日勤務だったが、月曜日勤務になってしまった」ということが分かった。ということは学級レクに来られる。しかし、朝になって祖母から電話があり、「朝、父親と一緒に時間に起きてきたのだが、学校には行かないと言う」とのことだった。1:50にこちらからいつものように訪問。「どうして来られなかったのかなあ」と尋ねるが、苦笑いして「さあ？」と言う感じで答えられない。

24日 火曜日だが父親が勤務なので訪問。

25日は代休でなくなり、父親は勤務。訪問。

26日は、雨が降りそうなので散歩は無し。通知表を渡した。

9. おわりに

1月以降も、12月までのように過ごした。タイトルに「弘樹の居場所」と書いたのだが、11月後半からはそれを追求できないでいた。とりあえず、学力をつけるという感じ。それしかやりようがない、手の打ちようがない、という気持ちでいた。

そんな気持ちを、1月11日にあった、所属するサークルの東海北陸地区セミナーで相談してみた。レポートを読んでもらうと、ある人が「佐藤さん自身が居場所になっている。居場所と言うのは、必ずしも物理的な場所のことではない」と言われて気が楽になった。同時に、「学校に行かなくてもいい」という安心させるような対話、弘樹が将来やりたいことについて考えるような対話をしていくと良いことも言われた。

それ以降、散歩しながらの会話の中に、そのような内容も交えていった。中学校でのクラスは、結局「特別支援学級」希望に落ち着いた。また、町教委のT先生（発達支援）が、私と一緒にたまに弘樹宅に行かれるようになった。「中学校へのつなぎ」なのだそうだ。弘樹もOKをしたので、たまに3人で散歩しながら話した。卒業式には、何と、はじめから参加できた。これは、新型コロナ禍の中で、来賓をほとんど呼ばなかったこと、在校生が不在だったこと（一人一人の台詞を家で録画して編集した在校生「呼びかけ」のビデオだけ流した）が大きいと思うが、校長室で一人だけの証書授与を予想していたので、うれしい誤算だった。

4月から、中学生になっている。生徒指導担当の集まりなどで聞くところによると、T先生がつなぎ役になってくださったおかげで、中学校の担任ともスムーズに関われるようになり、良い関係になっているとのこと。4、5月の休校時期には、たまに家庭訪問をして勉強も見ていたらしい。6月からは、「制服」に抵抗があるとかで、昼間には学校に行けていないが、先日の生徒指導の会議（テレビ会議）で、「放課後に来られるようになった」という報告を受けた。勉強も部活も進んでいないが、何とか、彼が自分の道を見つけられることを願っている。